

## 弘前大参画バイオマス研究

### 国の支援プログラム採択

弘前大は14日、東京農工大などと共同で提案したバイオマス研究の事業が、国の「共創の場形成支援プログラム(CO-I-NEX T)」に採択されたと発表した。東京農工大が代表機関となり、弘前大のほか米穀卸業ライケット(八戸市)などが参画し、国の支援を得ながら、温室効果ガスの排出よりも吸収量が多い、カーボンネガティブ社会の実現を目指す。

東京農工大が代表機関となり、30以上の大学、研究

機関、企業が参加。期間は2023年から33年までの10年間で、国から1年当たり最大3億2千万円の支援を受けて研究を進める。

弘前大は、農林業で生まれる残渣や間伐材を活用した、エネルギーや材料の開発に取り組む。プロジェクトに参加する同大地域戦略研究所の官国清教授は「農業から、より効率のいいエネルギーを生み出し、循環型社会を実現できる技術を生み出したい」と意欲を示した。

(林泰輔)